

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリー学校名：学校法人鎌形学園 東京学館新潟高等学校

活動名：担任力向上プロジェクト — 教師も生徒も皆が学ぶチーム作り

解決すべき課題：全国的な教員志望者数の減少という環境に加え、本校では数年後多くの教員が定年退職を迎える。そこで、「察する力（現状把握）」を持ち、現状と目指す像をベースにした学級経営ができる教師の育成が急務である。また、教師自身が日々の業務に追われ、自身のスキルアップを図る習慣があまりないため、自身についても「現状把握」をし、理想とする教師像との照合を行いながら、抱える課題を言語化することで日常の業務の中で学ぶ教師を育成する。

目標・方針：「担任力向上プロジェクト」と銘打った研修により、①「現状把握」と「目指す姿」の言語化、②課題の言語化、③論理立ったビジョンの構築（個人・グループ）を各教師が実践する。①～③の流れを、学級運営にも、教員自身にも行う。その後、学級運営ビジョンの練り直しを行い、教員間で共有を図る。週1回の「学年会」を活用し、到達点に向けて細かな軌道修正を行いつつ、見通しを持って前進するチームを育成する。また、手法を学んだ教師が、各ホームルームにおいて生徒にも指導し、互いに学ぶ空気を醸成する。

活動内容：研修において、教師自身が、①深く現状把握ができること、②理想像が見えていること、③ビジョンを持つこと、④指導に目的を持つことについて学び、演習を行う。その後、本校の校訓である「自主自学」を体現する理想の生徒像を言語化し、生徒の現状も同時に言語化する。そこで見えたギャップから課題を導き、「どの時期に」「どのように」「どのような優先順位で」生徒に付けたい力を育てていくかを個人・グループで思考し、体系的な年間マトリクスを作成する。研修後は、月に一度程度継続すること(Keep)、問題点(Problem)、新たに挑戦すること(Try)を言語化する KPT シート（右ページ参照）を用い、議論し、重要度・優先順位をつけ、次の行動へと結びつける。さらに生徒も KPT シートに取り組み、学びを深める姿勢を身に付ける。

活動の成果：事後アンケートより、『「自分はこのままではいけない」という危機感を感じていたが、研修を受けてより具体的に「何がどう、このままではいけないのか」が明確になった。』『「ない力をどう付ければ良いか」を考えることが必要だと感じた。』というコメントが多数寄せられ、研修に対する満足度が大変高かった（右：「研修満足度」参照 n=39）。そして現状把握の重要性についての理解が大きく促進した（右：「現状把握の重要性が理解できたか」参照 n=39）。まずは1学年から KPT 分析をベースとした取り組みを始め、ノウハウを構築した上で各学年主任とも連携をとることとした。KPT 分析を用いて、細かな r-pdca、月ごとの大きな R-PDCA をより効果的に実践することができ、教師の「察する力（現状把握力）」がより磨かれた。そしてチームで方針を定期的に確認、修正しながら教育活動にあたるようになったことは大きな意味を持つ。その結果令和2年5月、9月に実施した QU アンケートから「生徒の学級満足度」「担任との関係」に関するスコアがいずれも上昇し、t 検定を実施した所 1%水準でそれぞれ有意差が認められた。今後、2、3学年の成果が出ることが期待される。

アピールポイント（アイディアや工夫）：①現状と理想のギャップを言語化する担任自己分析シートや、生徒の現状と、育てたい生徒像を言語化し、付けたい力を明確化するワークシートを用いた点 ②KPT 分析の実施 ③「問題解決型アプローチ」「価値拡大型アプローチ」を教師個人にも当てはめた点 ④いかなる学校種においてもすぐに取り組めるプログラムにしようと努めた点。

研修アウトライン

担任自己分析シート（作成方法）

年間マトリクス検討（個人）

年間マトリクス作成（グループ）

研修資料（「コース通信」一部抜粋）

Practice makes perfect!

スキーマを学んで実践すること

2023年のスキーマ研修は、どのような研修を続けても、みんなが納得して、楽しく取り組むことができた。研修を通じて、自分自身の現状を把握し、理想とする姿を言語化し、具体的な目標を設定することができた。また、仲間と協力して取り組むことで、自分自身の成長を実感することができた。研修を通じて、自分自身の現状を把握し、理想とする姿を言語化し、具体的な目標を設定することができた。また、仲間と協力して取り組むことで、自分自身の成長を実感することができた。

1 学年年間マトリクス（一部抜粋）

最優先課題	現状	理想
1. 自己管理能力	① 時間管理、整理能力、環境（美化）	② 活動する力を付ける（積極性、責任感、計画性）
2. コミュニケーションの基礎構築	③ 学習習慣・生活リズム構築	④ 自己管理能力をさらに高める（誠実さ、スケジュール管理、目標と現実のギャップから、学習意欲、コース選択、達成感を味わう）
3. 集団行動の規範	⑤ 集団行動の規範	⑥ 社会性を高める（挨拶、礼儀、責任感、協調性）

研修満足度

大変満足	94.9%
やや満足	5.1%
どちらともいえない	0.0%
やや不満	0.0%
不満	0.0%

現状把握の重要性が理解できたか

はい	92.3%
どちらかといえばはい	7.7%
どちらともいえない	0.0%
どちらかといえばいいえ	0.0%
いいえ	0.0%

KPT 分析シート①

継続すること (Keep)	新たに挑戦すること (Try)
改善すること (Problem)	

KPT 分析シート②

重要	重要でない
緊急でない	緊急

QU アンケート結果（1 学年）

スコアは20点満点	5月	9月	差	全国平均
教師との関係	15.4	16.3	0.9	12.8
学級との関係	15.6	16.5	0.9	14.6

n=427